



新繪
傳元物
三





保元物語巻第三目錄

義朝とせう北中^{北中}とていふにせうはる
 ありしに乃るに身とあけあはる
 大和^{大和}の地元の志のなる
 新羅^{新羅}瀬^瀬明^明はせん^{せん}并^并重仁^{重仁}親^親とせう
 姉^姉の^のい^いは^はる^る
 た^た府^府の^のい^いは^はる^るお^おと^とん^ん家^家乃^乃る
 大^大相^相國^國河^河上^上の^のり
 新^新羅^羅は^は瀬^瀬志^志の^のい^いは^はる^る并^并わ^わる^るい^いは^はる^る
 為^為約^約い^いけ^けら^らと^とん^んあ^あは^はる^ると^とん^んあ^あは^はる^る
 為^為約^約鬼^鬼が^があ^あは^はる^ると^とん^んあ^あは^はる^ると^とん^んあ^あは^はる^る



守

守

守

守

保元 三



Handwritten text in a cursive script, likely Latin or a related European language, filling the right page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely Latin or a related European language, filling the left page of the manuscript.

くして神とまほしむるはたはたの極死しんたての世傳八才の世傳
 てしるも然らずけせりしりし時をかくんくもつてあつては
 とたつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 ちかへていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 せふのちかへていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 りしとたつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは

ふあんらんのか

とていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 あつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 つたつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 とつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 あつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 のせつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 来たりし言帯別せんはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 へつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 てつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 りつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは

とつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 まりつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 へつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 知れりし言帯別せんはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 へつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 林はたつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 あつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 てつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 とつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 のせつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 すつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 ちかへていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 けつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 あつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは
 てつていふはたつていふはたつていふはたつていふはたつていふは



進上
 七月晦日
 奉陪
 寺院
 師長

八月二日
 後方の息有るおと
 山懐
 赤
 赤
 赤

進上
 奉陪
 寺院
 師長

正二位 藤原朝臣 藤原長

物部

後二位 藤原朝臣 藤原

出羽

正三位 藤原朝臣 藤原

常陸

右正二位 藤原中納言 藤原朝臣 藤原

勅令 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

保元元年 八月三日

藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

左大臣

治部省

藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

右正二位 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

勅令 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

保元元年 八月三日

いもの長程師の志のあはれに... 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

大相國 藤原朝臣

藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

して西國の者たる皆教を以て此の如くして人々に傳へて其の
しむに比して其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
あらずしるは其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
とひん若く其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
らぬに比して其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
傳へて其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
教の如く其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
國と云ふは其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
とひん若く其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
らぬに比して其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
傳へて其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
教の如く其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ

西國の者たる皆教を以て此の如くして人々に傳へて其の

よの國の者たる皆教を以て此の如くして人々に傳へて其の
しむに比して其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
あらずしるは其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
とひん若く其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
らぬに比して其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
傳へて其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
教の如く其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
國と云ふは其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
とひん若く其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
らぬに比して其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
傳へて其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ
教の如く其の教未だ我の如く人々の心に傳へず其の教未だ

西國の者たる皆教を以て此の如くして人々に傳へて其の

